

大和地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年12月3日（月）19:00～20:10
- 2 場所 大和地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 19名
市出席者 5名（深澤市長、綱田都市整備部長、乾危機管理局長、
安本地域振興局長、吉田教育委員会事務局副教育長）



4 テーマ 安全安心なまちづくりと地域活性化

5 概要

（地元あいさつ）

各地で人口減少と高齢化が進んでいるが、大和地区でも同様で、高齢化率が4割と、鳥取市内でも割合の高い地域となっている。今後も住民が安全で安心して暮らせるようにするためには、さまざまな課題がある。本日は市と一緒に、その方策を考えていきたいと思うので、積極的なご意見をいただきたい。

（市長あいさつ）

今年から地域づくり懇談会の進め方を少し変えており、少人数で膝を交えて、ざっくばらんに意見交換させていただきたいと考えている。忌憚のないご意見をいただけたら大変ありがたい。

人口減少や少子高齢化は、大和地区だけではなく、国全体がそういう状況にある。今は地域でのつながりを大切にしながら、地域づくり、まちづくりを進めていく時期にあると考えている。本日のテーマである「安全・安心なまちづくりと地域活性化」は全市共通の大きな課題であるため、ぜひ皆様のご意見をいただきながら、今後の市政に限りなく反映していきたいと思っている。

大和地区の取組みの説明

<テーマの背景>

大和地区は、山と川に囲まれており、水害と土砂災害が懸念される2つのエリアで構成されている。地区の高齢化率が4割を超える中、地区として安全安心なまちづくりを進めていくうえで、防災・交通などの課題が出てきている。

また、江山中学校、美和小学校、神戸小学校の統合による小中一貫校の設立に伴い、江山中学校が廃校となる。その後の活用について、地域で話し合いを進めている。

<地域の取組み>

【安全安心なまちづくり】

大和地区では、年2回、まちづくり協議会主催で防災訓練を行っている。町内会単位で実施しており、それぞれの集会所を第一避難所、地区公民館を第二避難所と位置づけ、避難を実際に行っている。平成27年3月には地区の防災マップを作成。全戸配布し、地区住民の意識向上に努めている。

また、地区内の危険な道路について、児童・生徒の通学の際は保護者がついて行ったりするなど、登下校の見守りを行っている。また、毎年公民館祭や各集落・公民館利用団体で交通安全教室を開催し、地区の交通安全意識の醸成に努めている。

【地域活性化】

江山中学校の廃校後の活用について、準備委員会では校庭については今後も部活に使いたいといった話がでており、地区としては、1階の部屋など校舎の一部を、地域活性化の取組みに活用できないかと考えている。例えば、現在地区公民館の2階で開催している公民館祭作品展や歴史を学ぶ教室、レコード鑑賞会やパッチワーク教室などの活動、大人数を集めての防災研修等を江山中学校舎の1階で開催し、高齢者や歩行困難者等が参加しやすいようにできればと考えている。

(司会)

大和地区は高齢者が多いため、いかに安全で安心な地域にするかが大きな課題となっている。近年は自然災害が非常に多くなっており、大和地区でも避難指示が出たことがあった。平成27年度に地区の防災マップを作成したが、当地区は川に近い集落や山に囲まれた集落、そして集落同士が離れているといった特徴があり、どのようにしたら安全に避難できるかという課題がある。また、避難所に指定しているこの大和地区公民館と江山中学校と大和体育館の3か所が同じ所に固まっており、離れた地域の地区住民はどのように避難したらいいのかという課題もある。こういったことについて、市とどのように連携していったらいいかを話し合っていきたい。

大和地区公民館の近くにある工場跡地の横に慰霊碑がある。その前は市道となっているが、狭いため歩道がない。幅約50cmのグリーンベルトが設置されているが、子どもたちが通る

には非常に危険であるため、道を拡幅していただきたい。

2年後に美和小学校の所に新しい義務教育学校ができることに伴って、江山中学校が空き校舎となる。その跡地の利活用については新しい学校の準備委員会でも意見が出ているが、市の考えをお聞きしたい。

(地元)

大和地区と美穂地区では美和小学校が避難場所に指定されている。今年の災害のときには、大和地区公民館に避難していた人もいたが、行政の指示により、美和小学校に移動してもらった。大和地区から見ると、美和小学校は地形的に標高の低い位置にある。小学校に避難した人間は2階に行けば問題ないかもしれないが、移動に使った車は水没してしまうと思う。なぜ大和地区よりも低い位置にある美和小学校に避難しなければならないのだろうか。豪雨や水害等が起きた場合、道路が水没したら通れなくなることも想定されるため、大和地区公民館や、大和体育館を避難場所にしてもらえるとありがたい。

(地元)

美和小学校を含めて4つの避難場所があるが、横枕は土石流危険渓流の特別警戒区域と警戒区域に指定されており、大雨等には瞬時に災害が起こる危険がある。

地域の中にある江山浄水場は水没の危険が全くないため、ここを避難場所として検討していただきたいと思う。

(司会)

大和地区公民館は標高が14mである。美和小学校は10mであるため、わざわざ低い所に避難していくのかというご意見だったが、市からはいかがだろうか。

(深澤市長)

今年7月の豪雨では大雨特別警報が出されたため、全市的に避難指示を発令させていただいた。避難指示は避難勧告よりも強い発令であり、何とか身を守る行動を取るよう促す、緊急的な発令である。確かに大和地区公民館と美和小学校では標高の差があるが、全市的な避難指示ということで、緊急的に判断させていただいた。

我々は10分毎に記録されている河川の水位の変化等をもとにして避難勧告や避難指示等を出している。大和地区公民館は浸水想定区域の中にはあるが、緊急的に避難することも可能だと思っている。

江山浄水場については、以前にも緊急的に避難場所としたことがある。最近は局所的に短時間で、大量の雨が降る状況が続いており、河川の水位が短時間で急激に上昇する場合には、普段は避難場所として指定していない場所でも状況に応じて避難をお願いする場合がある。緊急時の避難場所については、今後も考えていく必要がある。

(危機管理局長)

昨年6月に市の総合防災マップを発行した。国土交通省が48時間で508mmと想定している、1000年に1度の確率の降雨では、大和地区公民館も浸水想定区域になるが、雨の降り方や、浸水の状況を見極めて公民館に避難することも有効な手法だと考えている。

1000年に1度の雨が降った場合の浸水深は1.07mで、浸水の継続時間は3.72時間と、国が試算している。つまり、1000年に1度の雨であっても、2階以上に避難すれば身を守ることができる。また、浸水の継続時間も3.7時間であり、それに耐え得る装備があれば身の安全を守ることができることを頭に置いていただければ、具体的な避難行動につながるのではと考えている。

(地元)

7月に避難指示が出たのは、千代川全体が危険だったためだろうか。それとも、どこか特定の場所が危ないために出されたのだろうか。

(深澤市長)

7月は気象庁から大雨特別警報が出された。千代川水系はもちろん、千代川以外の中小河川もあり、市内全域が非常に危険な状況にあったということである。

(地元)

7月の災害の後、倉田のグラウンドの上流側にゴミがいっぱい溜まっていた。その部分は土砂が堆積し、草木が生えており、水位が一気に上がりやすくなっている。そういった危険な箇所を掘削し、河床の維持管理をしていくことはとても大事だと思っている。ぜひ鳥取市でもこの件を国と議論していただき、千代川の維持管理をお願いしたい。

(深澤市長)

河床の維持管理については、我々も以前から国に要望してきた。私自身も関係先への要望や意見交換をさせていただく中で、国も7月の大雨を受けて、河床の掘削や川の中に生えている樹木の伐採を全国的にも進めていかなければならないと認識しているように感じている。

国も以前と比べると、河床掘削をはじめ、治水に関する経費等が減少している。これら予防のための経費を増やさないと、いざ災害が起きたときに、その対応にかなりの予算を費やさないといけなくなる。そのため、今回は国も災害防止のための予算をつけてしっかり取組もうという状況に変化してきていると考えている。

鳥取市としても、千代川水系の河床掘削や樹木の伐開、堤防のかさ上げといった治水事業に対し、しっかり予算化し、対応していただくよう、これからも要望し続けていきたいと考えている。

(地元)

7月の豪雨のとき、防災行政無線が雨で聞こえづらかった。先日、危機管理課から無線の受

信機を借りられることを聞いたため、今度の総会で諮ろうと思っている。

防災行政無線の内容では何のために避難するのかが分からなかった。また、避難するための手段についても非常に苦労している。高齢者の世帯が多く、夜の避難は危険である。なぜ避難するのか、どうやって避難するのかを防災行政無線で連絡してもらえよう、検討していただきたいと思う。

(深澤市長)

防災行政無線では、災害の状況を長々と放送しても聞き取りづらいことがあると思う。テレビでは文字放送があり、鳥取市が避難指示や避難勧告を出したら、数分後には字幕で出るようになっていて。例えば大雨のときはテレビをつけたままにして、情報を確認していただければと思う。また、今、鳥取市が考えているのが、コミュニティFMといって、新本庁舎の一角に、FM鳥取というラジオの放送局に入ってもらう予定にしている。災害が発生したときや、災害が起こることが予想されるときは、24時間態勢で様々な情報を流していただくようなことを考えている。

深夜や未明など、真っ暗な中で大雨のときに外に出て避難することは、かえって危ないと思う。実際に他の自治体で、避難しようとして事故に遭ったというケースもあるため、夜間の緊急時は別の場所へ移動するのではなく、垂直避難といって、自宅の2階などできるだけ高い所で身を守る行動を取っていただくことになろうかと思う。

地震と異なり、大雨の場合は事前に予想できる部分がある。自主避難所を市内10か所に早め開設し、明るいうちに避難行動をとっていただくようお願いしている。情報伝達がしっかりできるように、内容もより分かりやすいものにするなど、これからも努めていきたいと思う。

(地元)

私も以前避難したことがあるが、避難中は災害の情報が全然入ってこなかった。テレビもなかったため、携帯電話で千代川のライブカメラを確認していたが、暗いためあまりはっきり分からなかった。

避難をする前に独居の方の家を回って一緒に避難するよう促したが、今まで大きな災害がなかったからと言われ拒否された。避難指示が発令されて再度回ったが、やはり避難されなかった。住民の避難を促すためには、もっと災害に関する情報が必要ではないかと思った。

(深澤市長)

避難所に避難しても、テレビ等がなく情報が分からないという意見は他にもいただいております。我々も改善していく必要があると考えている。公民館や学校等でも、テレビがあるにもかかわらず、それを使うことができないような状況がある。何らかの形で災害の状況や今後の見込みをお伝えできるようにしないといけないと思っている。

(地元)

大和地区公民館の前を通っている市道が倭文横枕線であり、地区の幹線道路になっている。この公民館から、鳥取自動車道の高架までは片側1車線道路で、歩道も整備されており、歩行者も安心して通行することができる。しかし、鳥取自動車道の高架から玉津寄りについては、そのような改良がされておらず、見通しも悪いため、通行しにくく感じている。玉津・倭文西の小中学生・高校生は通学時にこの道を通るが、高架のすぐ下に慰霊碑が建立されており、樹木も茂って見通しがさらに悪くなっている。

大和地区で通学路の安全確保や、安心・安全な地域づくりを進める中で、この慰霊碑の移転も視野に入れて検討をしていた。その結果、慰霊碑の移転については、大和の遺族会の関係者にもご理解いただき、同意していただいた。この市道については、市にグリーンベルトの設置や、路面の減速標示をしていただいている。ぜひこの機会に市道の拡幅、歩道の設置をお願いしたいと思う。

(深澤市長)

この市道の拡幅については以前からも要望をいただいていた。この慰霊碑の移転が可能ということであれば、市道の拡幅も進めやすいということになると思う。あとは全市的な優先度を考慮しながら、順次整備や補修をしていくため、これから検討させていただくことになるだろう。事業費がどれくらいになるのか、地権者の方にご協力いただかないといけない部分がどれくらいあるのか、そういったところからまずは検討させていただく必要があり、研究させていただきたい。

(都市整備部長)

前回の地域づくり懇談会のときにも同様の要望をいただき、そのときはグリーンベルト等の対応や、路面標示の安全対策等で、しばらく様子を見ていただきたいと回答したように記憶している。

市道の拡幅にあたり、支障となる慰霊碑の移転の合意がいただける状況になったということであったが、全市的な優先度があるため、まずは交通量や危険性等、現状を確認をさせていただきたいと思う。その上で、ここの拡幅や歩道設置等について研究をしたいと思う。

(地元)

これまでのところ、子どもたちが事故に遭ったということはないが、車の接触事故等はあった。地域の長い年月をかけての念願でもあるため、ぜひ、早く実現ができるようにご配慮いただきたいと思います。

(司会)

それでは最後の江山中学校の跡地について、市の基本姿勢をお聞かせいただきたいと思います。江山中学校は通常の廃校と異なり、地域だけでなく、学校側も活用したいと考えている。市の基本姿勢を踏まえて、地域で今後のことを考えていきたいと思っている。

(深澤市長)

全市的には、こういう小学校、中学校の統廃合等で利活用ができる状況になれば、まずは地域の皆さんのいろいろな考えを伺って利活用していくことになる。そのため、現時点では鳥取市での明確な方向性は出していない。

公共施設をこれからどのように利活用していくか、更新していくかという課題、問題が全国の自治体の大きなテーマになっている。例えば1つの施設を違った使い方をしたり、将来的に複数の施設を1つにして複合化していくなど、工夫しながらやっていかないといけない時代になってきている。そのため、学校側もグラウンドを使われたり、建物を一部地域の方や民間の方が利活用されることは可能だと思っている。実際に市内の他の旧中学校でも、野菜の栽培や、障がい者の方の作業所として一部活用をしておられるような例もある。うまくお互いに活用していただけるような形になれば良いのではないかと考えている。幅広い利活用の方法を皆さんとともに検討させていただきたいと思っている。

(教育委員会事務局副教育長)

今のところ、市の方針は決まっていない。鳥取市の未利用財産の利活用についてという方針があり、そこには市民共通の貴重な財産であるということから、地域要望について配慮しながら、地域の活性化と全市的なまちづくりの視点を持って利活用を行うと定められている。皆さんと一緒に検討しながら、どういう活用が一番いいのかを考えていけたらと思っている。

学校側も体育館や校庭を活用したいという希望があるということなので、例えば部活で使う際、道中の安全性が確保できれば、活用する方向で検討してもいいのではないかと考えている。

(司会)

地域でも、活用方法について検討していきたいと思う。

今回は議題には挙がってないが、大和地区では路線バスの猪子横枕線の廃止が大きな問題となっている。新しい学校ができるのに学校に行けないのではないか、高齢者が多いのに移動手段がなくなるのではないかとといった問題があるため、このことについても市からの大きな支援をお願いして、本日の懇談会を終わりたいと思う。

(市長あいさつ)

今は路線バスを維持していくことが非常に難しくなっている。これは利用者が減少し、採算が取れなくなっていることと、もう一つは、運転手の確保が事業者として難しくなっているためという話を聞いている。これからも通学、通勤のために路線バスを維持していくよう努めていきたいと思う。

また、公共交通空白地有償運送という方法もある。これは地域の皆さんで小型の車両を運行していただくという制度であり、実際に鳥取市内で取組んでいる所もある。これからいろいろな形で地域の生活交通を守っていくということに、我々も努力していかなければならないと思っている。

防災面でも、しっかりと地域防災力を高めていくことに、市としても今まで以上に努力させていただきたいと思っている。地域においても、日頃から防災訓練等を行い、避難経路等についても地域で話し合っ、備えていただければ大変ありがたい。